

(単元) 自己を描く

(本時のねらい)

- ・顔の凹凸を捉えて, 立体的に表現することができる。
- ・固有色以外の色を重ねることで, 豊かな色あいで彩色することができる。

(ICT 活用方法)

人間の肌や頭部は, 光や血管, 周りのものの反射など様々な色が存在している。そのことを説明するため, 従来は参考作品を黒板に掲示し, 生徒に黒板の前まで来てもらって説明していたが, この単元ではタブレット端末で撮影しておいた参考作品を電子黒板に投影し, 参考作品を拡大して説明することにした。

また, 授業中に深みのある色が表現できている作品をタブレットで撮影しておき, 授業の最後に見せることで, ほかの生徒が次の時間の制作に生かせるようにする。

(本時の展開)

| 時間 | 学習活動 | 指導事項 | ICT 活用法 | 備考 |
|-----------|---|--|---|----|
| 導入 10分 | ・前時に彩色した自画像に重色をしていくことを知る。 | ・影になっている部分を彩色していくよう伝える。 ・肌は固有色以外の色を重ね豊かな色合いにするよう伝える。 | ・タブレット端末で参考作品や手本を提示し, 電子黒板に投影して説明する。 ・特に注目してほしい部分を拡大したりペン機能でマークして理解を深める。 | |
| 展開 30分 | ・鏡を見ながら自分の顔を観察し, 影になっている部分を彩色していく。 ・固有色以外の色を見つけ, 重色する。 | ・机間指導で, 影ができるポイントに気づかせる。 ・個有色以外の色を見つけられるように, 具体的に助言をする。 | ・豊かな色合いで表現できている作品をタブレットで撮影しておく。 | |
| まとめ 5分 | ・豊かな色で表現できている作品を見る。 | ・豊かな色で彩色できている作品を紹介する。 | ・タブレットで撮影しておいた作品を電子黒板に映して, 見てほしい部分を拡大する。 | |

(生徒の反応と課題, 改善を要する点)

現在は美術室に電子黒板がないので正確な反応はわからない。しかし, 後ろの座席から黒板に掲示する作品が見えにくい事については, 電子黒板で作品を投影させると拡大する事ができるので見やすくなると思われる。

課題は、色域についてである。モニターを通すと、実際に自分の目で見るとよりも色域は狭くなり色味の微妙な変化まで見つけるのが難しい。遮光カーテンを設置して映り込みを防止したり、モニターのある教室前方の照明を消して画面を見やすくする等の対応が必要である。